

適性検査1

注 意

- 1 検査開始の指示があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- 2 検査時間は四十五分間で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 問題は

一

 問1 から

二

 問3 まであります。
- 4 問題用紙は1ページから13ページまであります。
- 5 検査開始の指示後、すぐにページがそろっているかを確認^{かくにん}しなさい。
- 6 解答用紙は二枚^{まい}あります。
- 7 受検番号をそれぞれの解答用紙の決められた場所に記入しなさい。
- 8 解答はすべて解答用紙に記入し、解答用紙のみ二枚とも提出しなさい。

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

（＊印のついている言葉には、本文の後に「注」があります。）

私の詩友・川崎洋さんの作品「夜」の中に次のフレーズがあります。「夜」は六〇行近い長さの作品ですが、その中の一連です。

恐竜の肋骨の一本一本に区切られる星の無数

何処かひどく関係のない遠くで

橙色の月めがけて

すぽんと海を脱ぐ魚

（詩集『川崎洋詩集』）

この中の〈すぽんと海を脱ぐ魚〉という表現が、私はたまたまなく好きです。これは、海中の魚が海面上に躍り出た様子ですが、〈魚が海面に躍り出た〉という普通の表現では太刀打ちできない生動感を持っています。

〈あ〉と表現されているので、ふだん、魚が素肌で巨大な海を着込んでいることもあらためて私たちに感じられ、全

身を撓めて あ ときの、魚の胴のしなやかなひねりとその力強さまで伝わってきます。

魚が海面上に跳び出たということを単に伝達したいだけならば、〈水中から海面上に魚が跳び出た〉と書いて充分なわけです。しかしそういう表現では〈あ〉という表現から感じられるような、魚のピチピチした躍動感と生きのよさが捕えられません。ここが詩の表現と普通の文章との決定的な違いだということを知ってほしいのです。

要するに意味がわかりやあいんだろ、では、詩の表現の魅力に近づくことができません。詩歌の表現では、そこに「何が」書いてあるかだけでなく、「何が」「どのように」書いてあるかの二つで魅力が量られるのです。「何が」もちろん大事ですが、それが「どのように」書かれているかによって、「何が」の印象も変わってきます。

〈すぽんと海を脱ぐ魚〉という表現は、そのことを鮮やかにわからせてくれるのではないかと思います。このように私たちも、常識を脱ぐことができたらいいな、と思わせる表現でもあります。

川崎さんの作品をもう一つ挙げます。

①
どうかして

川崎 洋

樹^き

なんとかお前に交わる方法はないかしら

葉のしげり方

なんとかお前と

交叉^{こうさ}するてだてはないかしら

鳥

お前が雲に消え入るように

僕^{ぼく}がお前に

すつと入ってしまうやり方は

ないかしら

そして

僕自身も気付かずに

身体^{からだ}の重みを風に乗せるコツを

僕の筋肉^{きんにく}と筋肉の間に置けないかしら

夕陽^{ゆうひ}

教えておくれ

どうして

坂の上に子供達^{こどもたち}が集まって

おまえを視^みるのか

どうして

子供達は

小さな頬^{ほお}の上に忙^{いそが}しく手を動かして

まるで

夕陽をそこにすりこむようにして

其処^{そこ}に

歌かおしゃべりか判^{わか}らない喚声^{かんせい}が

渦^{うず}を巻^まくのか

日の暮^くれ方を教えておくれ

森の色の変^{かわ}り方を

蜻蛉^{とんぼ}の羽の透^すきとおり方を

土のしめり方

粗^{あら}い草の匂^{にお}い方を

教えておくれ

(詩集『木の考^{かんが}え方^{かた}』)

私は長いこと、若い人の投稿詩とうこうしを読んだ経験がありますが、その投稿詩で「鳥のように飛びたい」という言葉を頻繁*ひんぱんに目にしました。人間の気持ちの中には確かに自由な飛翔願望*ひしやうがあり、とくに若い人の間にそういう欲求よつきゅうの強いことはわかりますが、「鳥のように飛びたい」という表現では、あまりにも、ありふれていて切実感がありません。

そこで、引用詩の第二連を見てほしいのです。この連は、飛翔願望そのものをうたったものではなく、鳥への融合*ゆうごうを願っている詩ですが、これを、空を飛びたいという普通の表現に、仮に対比させてみますと、そういう普通の表現の及びおよもつかない方法で、飛翔力を人の筋肉の中にも取り入れることができるような、そんな幻想げんそうに導かれてしまいます。「身体の重みを風に乗せるコツ」を筋肉と筋肉との間に置くことができれば、本当に身体が宙ちゅうに浮くのではないかという気がします。

この連の魅力は、浮力ふりょくを筋肉と筋肉との間に置きたい、という丁寧な手続きにあります。「飛びたい」と願う前に、飛ぶことに必要な手続きをとろうとするこの詩人の、飛翔への、あるいは空を飛ぶことができる生物たちへの、独特な愛着が、こういう丁寧な表現を生み出したのだと私には思われます。

「空を飛びたい」という願望を聞かされる時だけのとき、私

たちは「ああ、そうですか、どうぞ」としか言えませんが、川崎さんの詩を読むと、私たちは、飛ぶために努力いが要するというを感じ、飛ぶことに、もつと強い愛情さえ感じます。

詩は思いを述べるもの、というふうに普通、思われています。たしかに詩は、ある思いが動機うごになって書かれるものですが、それが単に希望を述べるとか、嬉しい悲しい淋しいさびと言うだけでは、それを読んでくれる人の共感が得られないのです。読者は、作者の述べている願望や喜怒哀楽*きどあいらくの感情の直接的表白*にたいしては、「(そうですか)」と言うほかないのです。

人間の精神活動は、知・情・意の三つに分けられますが、私たちは他人の感情や意志については、その人の感情や意志の理由がわからなければ賛成も反対もできません。つまりある人が怒おこっているとか悲しんでいることの理由がわかって、はじめて私たちは同情することも可能になるわけです。

怒ったり悲しんだりしている理由を、その本人が、他人にもわかるようにしてはじめて共感の条件ができます。

言いかえますと、ある感情に包まれたり、ある意志を持つている人は、それをそのまま情意*おもむの赴おもむくままに述べるのではなく、一度、他人の判断が可能になるようにしなければいけません。^②

つまり、「知」的判断ができるようにすべきです。

表現の世界である詩の場合でも当然そうあるべきはずなのに、なぜか、詩歌の場合に限って、作者は自分の思いを単に述べるだけで、それが、他人の共感を得るはずだと錯覚さっかくされています。詩の作者と読者との間に共感が成り立つためには、作者が単に思いを述べるだけでなく知的判断をどこかに示していなくてははいけません。その知的判断の面白さが読者の共感きんかんを誘うのだということを感じてほしいと思います。

(吉野弘『詩のたのしみ』問題のため一部改編)

〔注〕

- *詩友…詩を通じて交わる仲間のこと。
- *生動感…生き生きとして動き出しそうな感じ。
- *全身を撓たわめて…身体全体を曲げることを表現している。
- *頻繁…たびたび行われること。
- *飛翔…空高く飛ぶこと。
- *融合…二つ以上のものが一つになること。
- *表白…言葉に表すこと。
- *情意…感情のこと。

問1

あ にあてはまる言葉を本文中の「夜」の詩の中から四字で抜き出し書きなさい。

問2

① どうかして とありますが、この後には言葉が省略されていと考えられます。その言葉を詩の内容をふまえて、六字以内で書きなさい。

問3

② 他人の判断が可能になるようにしなくてははいけません。について(1)、(2)の問いにそれぞれ答えなさい。

(1)

詩においては誰が他人の判断を可能にすべきだと考えられますか。解答らんに合うように書きなさい。

(2)

② 他人の判断が可能になるようにしなくてははいけません。のように筆者が述べたのはなぜですか。本文をふまえて解答らんに合うように書きなさい。

問4

本文中に 太刀打ちできない とありますが、あなたが体験した「太刀打ちできなかった」ことは何ですか。また、そのことにどのように対応しましたか。次の条件にしたがって書きなさい。

条件1 本文で用いられている意味をふまえること。

条件2 書き出しは一まずめから書き始めなさい。

条件3 文章は、五十字以上六十字以内で書きなさい。

、や。や「なども一字と数えます。

このページには問題は印刷されていません。

二 次の文章Ⅰと文章Ⅱを読んで、後の問いに答えなさい。

(＊印のついている言葉には、本文の後に「注」があります。)

文章Ⅰ

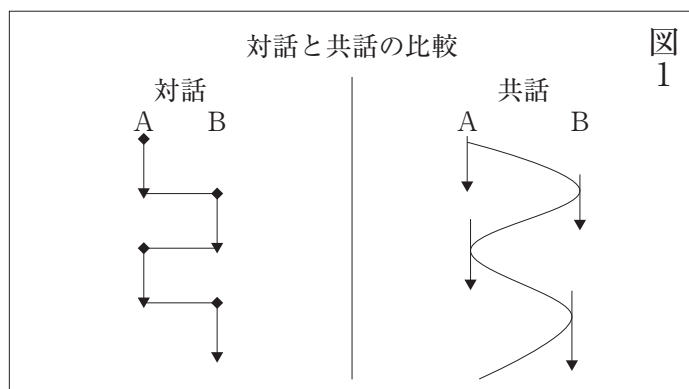
最後に、コミュニケーションについて、この数年ずっと考えていることをお伝えします。コミュニケーションから対話という言葉を連想するひとは多いと思います。

一方僕は、対話とは違う話し方、「共話」(図1)について研究しています。

この図で示している通り、Aさんが喋っているあいだはBさんが黙って聞いている、Aさんが喋り終えるとBさんが話す。これが

対話です。対話しているとAとBの違いが浮き彫りになります。

① 対話とは、そういう会話の方法なんです。どちらが発言したかが明確なので、たとえば似たような内容を話していたとしても、両者の人格がくつきりと出る。



それに対して、共話は少し違います。相槌を打ったり首を振ったり、相手が喋っているときに自分の声を重ねたり。もしくはフレーズを途中で切つていけばなしにすること、相手がフレーズを拾って続きを話したり。つまり、共話とは、相手と一緒に会話をすることです。現実には僕たちは、共話と対話をおり交ぜながら話し合っているんですが、共話で話すことを意識してやっていると、本当に他愛のない話でも、相手と自分の心理的な距離を縮めることができます。自己と自己の重なりをつくるコミュニケーション方法なんです。

これは言語教育学者の水谷信子

先生が提唱していますごく共感し

たんですけど、とくに日本語の会話には共話が多いといわれています。

共話をしていると、「私とあなた

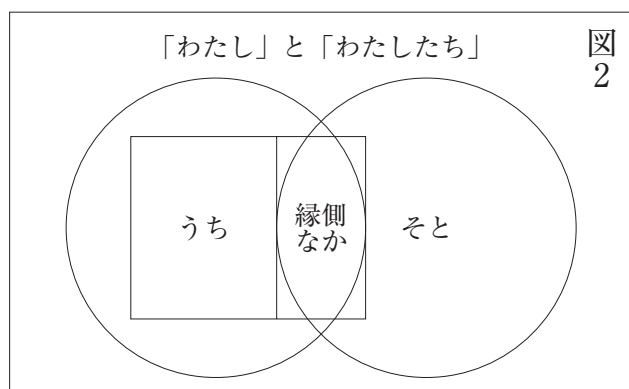
」「私とそれ以外」というふう

に切り分けるんじゃないって、「私

たち」としかいいようのない感覚

が生まれてきます。縁側(図2)

は家の内側でも外側でもない場所にあるところに面白さがあります。



内のひとはもちろん、外のひともそこに上がれる。縁側に内と外のひとたちが一緒に座^{すわ}って、仲間になる。「仲間になる場所」縁になる側」という考え方なんです。これは人間関係に置き換えられます。通常は、内と外に分けるように自分と他者を切り離^{はな}して考えますが、共話をしているときには、その壁^{かべ}がなくなり縁側的な関係性が築けるわけです。

僕も、「今日は共話で話しましょう」と決めて話したトークイベントで、話が面白くなってどんどん掛け合いになっていく感覚を味わいました。でも、ふたりともどっちが何をいったかはよく覚えていないんです。こんな話が出たというのは覚えているんだけど、どっちがいったのかは忘^{わす}れている。でもすごく楽しくて、二人で一緒にその場をつくっていった感覚だけがある。言葉というのは、関係性をつくる道具です。私たちのなかにはいろんなものが渦巻^{うずま}いていて、言葉になっている部分と、まだ言葉にならないモヤモヤしている部分、その二つをつなげるようにして自分の考えをまとめている。

(ドミニク・チェン「わかりあえなさをつなぐ言葉たち」(『高校生と考える 21世紀の突破口』所収) 問題のため一部改編)

〔注〕

* 図1：水谷信子と川田順造の著書をもとに筆者が作成。

* フレーズ：まとまった意味を表すひとつづきの言葉。

* 提唱：意見や主張を発表すること。

* 縁側：和風住宅の周囲に作られた、庭などの外部から屋内に入るための通路部分。

* 図2：安田登の図をもとに筆者が作成。

文章Ⅱ

「対話」のもとにあるギリシア語の「^{*}ディアロゴス」が「問答」^{*}とも訳されることは、すでに見ました。二人の間で問いを発してそれに対して答えるという、このやりとりが対話の基本をなします。そこには「語る、聞く」がさらに具体的なかたちで働いています。

どうして「問い」と「答え」の対^つが必要かと言うと、「語る」と「聞く」は究極には一方向性や^{*}一体性^{おちい}に陥^{おちい}る可能性があるためです。^{*}定義で見たように、対話は一方的な語りではありません。自分の言いたいことだけを言って確かめもしないとするれば、たとえ二人ともが自分の主張をしたとしても、それは言いつ放しです。確かめるという作業は、言った相手に問いかけ、それに答えるということが必要ですので、このような意味で対話の基本は問いを発し、答えるというところにあります。

(^{のうとみのぶる}納富信留『^{たいわ}対話の技法^{ぎほう}』問題のため一部改編)

〔注〕

^{*}ディアロゴス：「人と人との間で交^かわされる言葉」という意味。日本語では、「問答」と訳される。以上の内容が、この文章より前に説明されている。

^{*}一体性：全体が一つになって分けられない性質のこと。

^{*}定義：用語の意味を正確に限定すること。この文章より前で『対話』とは、二人や少数の間で、相互^{そうご}に言葉のやりとりをすること、また、一方的に語られる場合は『対話』ではない」と説明されている。

問1

① 対話とは、そういう会話の方法なんですね とありま

すが、文章Ⅰの「対話」について説明した次の一文の

にあてはまる最も適切な言葉を、本文から十字以内で抜き出し、解答らん^ぬに合うように書きなさい。ただし、^だし、^ゝや。^ゝや。「なども一字と数えます。

一方は発言して、もう一方は という会話の方法。

問2

次の会話文(1)から(5)の中から、文章Ⅱで述べられている「対話」にあてはまる会話を一つ選び、その番号を書きなさい。また、その番号を選んだ理由を、解答らんに合うように書きなさい。ただし、AとBはどちらも小学生とします。

(1)

- A .. もうテニスをやめようと思います。
 B .. なぜテニスをやめようと思ったのですか。
 A .. 試合で一度も勝てないからです。
 B .. 勝つただけにテニスを続けていたのですか。
 A .. いいえ、楽しいから続けられました。
 B .. では、今は楽しくなくなってしまったのですか。
 A .. いいえ、楽しいと思います。
 B .. では、もう少し続けてみてはどうですか。

(2)

- A .. 夏といえば、海です。海に行きましょう。
 B .. 山が良いです。山登りをしましょう。
 A .. 海で泳ぐのは、気持ちが良いです。
 B .. 山の頂上ちようじやうから見える景色は、すばらしいです。
 A .. 海ではスイカ割りわもできます。楽しそうです。
 B .. 山でテントを張って、キャンプをしたいです。
 A .. 夏休みが待ち遠しくなってきましたね。
 B .. そうですね。今から準備しておきましょう。

(3)

- A .. クラスの発表会の出し物は、劇げきが良いと思います。
 B .. 私も劇が良いと思っていました。
 A .. みんなで取り組める点が良いと思います。
 B .. クラスのみんなが参加できますね。
 A .. まずは台本を作り、配役を決めましょう。
 B .. 劇の練習をする前に、台本が必要ですね。台本が完成したら、演じる役を決めましょう。
 A .. 次に、場面に分かれて練習しましょう。
 B .. 場面ごとにセリフを読み合わせて、演技に慣れましょう。

(4)

A .. 先日話した映画^{えいが}なのですが。

B .. あの映画、見に行ってきました。

A .. もう見に行ったのですね。私も、今週。

B .. 見に行くのですね。私はとても感動して。

A .. やはり感動するのですね。結末がどうなるのか気になって。

B .. 結末を伝えますと。

A .. 待ってください。結末は自分の目で。

B .. すみません。言わないでおきます。

(5)

A .. 元気がないですね。

B .. 先生にしかられてしまいました。

A .. そうですか。

B .. 情けなかったです。

A .. そうなのです。

B .. もっと気をつけるべきでした。

A .. そうですね。

B .. 次から同じ失敗はしないつもりです。

問3

自己と自己の重なりをつくるコミュニケーション方法
に対するあなたの考えを書きなさい。その際、次の条件
にしたがいなさい。

条件1 段落構成については、次の①から③にしたがうこと。

① 第一段落には、自己と自己の重なりをつくる とは
どのようなことか、自己と自己の重なり とは何かを
明らかにしながら、文章Iの本文中の言葉を用いて書き
なさい。

② 第二段落には、第一段落をふまえて、自己と自己の
重なりをつくるコミュニケーション方法 で会話したあ
なたの体験を具体的に書きなさい。

③ 第三段落には、第二段落で書いたあなたの体験におい
て、自己と自己の重なりをつくる 上で大きな役割を
果たしていたと考えられる具体的なしぐさや態度を書き
なさい。

条件2 そのほかについては、次の①から③の条件にしたがう
こと。

① 解答は原稿用紙の正しい使い方で書き、書き出しは一
ます空けて書き始めなさい。

② また、言葉を正しく使い、文章は百八十字以上二百十
字以内で書きなさい。

③ 、や。や「なども一字と数え、改行などで空いた
ますも字数に数えます。

